

【中学校の部】 優秀賞

見えない誰かとつながれる

大分大学教育学部附属中学校 2年
古川 咲綾



私は二年間、髪の毛をのばしています。それには理由があります。

四年程前、私の祖母は乳がんが分かり手術をしました。その時、進行性の乳がんが診断されました。そのため、抗がん剤治療が始まりました。ふっくらしていた祖母は、日に日に痩せていきました。そして、髪は抜け落ち、爪は茶色っぽく変色し変形していきました。それから、手足の痺れや吐き気が辛いと祖母は言っていました。また、突然気を失うこともありました。そのような苦しい抗がん剤治療に耐え、一生懸命頑張っていました。私がお見舞いに行くと、きつく辛いはずなのに、にっこり笑って私の学校の話などを聞いてくれました。

「まだ、死にたくない。さあちゃんが将来何になるか見たいわ。」

と祖母は言っていました。

「おばあちゃん死なないで。長生きして。きついと思うけど治療頑張る。」

と私は心の中で言いました。

祖母の体はその抗がん剤治療に耐えることができなくなり、アナフィラキシーショックの状態になりました。そのため抗がん剤治療は中止になりました。祖母のがんは進行性なので、とても心配になりました。ちょうどその頃テレビで祖母と同じ進行性のがんを患っていた方の報道がありました。幼い子供二人の母でした。かなり乳がんが進行しており、辛く苦しいはずなのにウィッグをつけて笑っていました。しばらくして、その方は闘病の末亡くなったのでした。私はその報道を受けて、怖くて怖くてたまりませんでした。大好きな祖母も居なくなってしまうのではないかと考えてしまいました。そこで、ただ悲しがるのではなく、今まで可愛がってくれた祖母にまた元気になってもらって、運動会の応援に来てもらったり、一緒に食事に出かけたりしたいと思いました。

しばらくして、祖母の髪の毛が抜け落ちていたのでウィッグを探す話をしていました。その時、以前に観たテレビの話を思い出しました。その番組では小学生の男の子が髪を腰までのばし束ねていました。髪を長くのばしている理由は、病気の治療などで髪が抜け落ちてしまった人にウィッグとして使ってもらう(ヘアドネーション)ためでした。とても感動しました。その時、私もこの男の子みたいに病気と闘っているひとの力になりたい、応援したい、と思いました。それから私は、髪の毛を大切にのばしています。夏の暑い日や水泳の授業のある日、髪を乾かすのに時間がかかる時など、もう切っただけでいいと思う日もありました。しかし、この髪で喜んでくれる人がいると嬉しいと思いました。テレビの報道の二人の子供のお母さんの様に、ウィッグをつけて笑顔になってもらえるかと信じています。私は祖母のお見舞いに行った時に

「今、髪の毛をのばしていて、これで誰かのウィッグをつくってもらおうの。本当はおばあちゃんのをつくってもらいたいけど誰のウィッグになるか分からないの。」

と言うと、祖母は

「それはとても良いことだね。きっと喜んでくれるよ。ばあちゃんはうれしいよ。」

と言ってくれました。

私は二年間、髪の毛を切っていません。あと、少しで腰にとどく長さです。そろそろヘアドネーションのため、カットしようと思っています。ヘアドネーションで病気と闘っている人とつながれたような気がします。お互い、決して顔を知ることや会うこともないけれど、つながることができるのです。私は今回初めての取り組みですが、ヘアドネーションの活動を広めたりし、続けていきたいと思っています。

